教うるは 学ぶの 半ばなり

R6 南信教育事務所だより

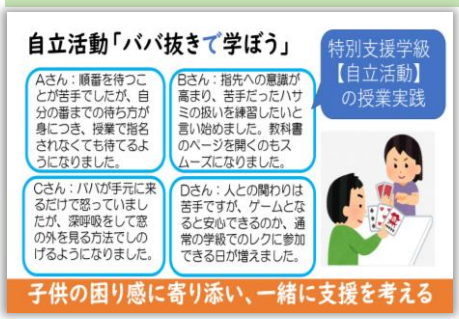
教学半也

令和６年12月18日
No.12

すべての先生方対象

明日からの授業のワクワクに ～第4回 授業づくり研修会～

11月18日（上伊那）、19日（諏訪）に、授業づくり研修会を行いました。前半は、「特別支援教育」に関わって、トランプ（ババ抜き）を用いた自立活動の実際を体験し、日頃から困り感を抱える児童生徒への支援を考えました。後半は、日常の授業改善に向け、授業づくりにおける悩みやもっと知りたいこと・明らかにしたいことを参加者同士、指導主事・専門主事と語り合い、前半の内容と関わらせながら考えを深めていく参加者の姿がありました。



前半：自立活動を体験

後半：悩みを語り合う

自立活動やSST（ソーシャルスキルトレーニング）について、子供の実態から自分が必要だと思うことを授業等でなんとか実践しようと考えていましたが、**子供自身にその力を身に付けたいという願いがあることが重要**だと学びました。私が支援をしすぎず、**「自分にはこんな手助けがあればうまくいくんだ」**といった子供自身の自己理解を促すことも大事にしていきたいです。【小学校A先生】

どのクラスにも個別に支援したい子供がいますが、私だけでは支え切れないことが多いので、**関わってくださる先生方に相談しようと思います**。クラスの子供一人一人のためにも様々な視点からの配慮を考えようと思いました。また、教科ごとの懇談では、授業の流れを教えていただき、他の題材でも生かせそうなポイントを学べました。　【小学校B先生】

コミュニケーションを行う目的や場面・状況等の設定の必要性と重要性を改めて学ぶことができました。今まではいきなり英語で書くようにしてましたが、自分でどんどん表現する力をつけるために、**まずは話してみてから書くことも取り入れてみます**。3年目でも**毎回この会を通して多くの気づきと学びがあります**。ありがとうございました。　【中学校C先生】

計4回（プレを入れると5回）行われた今年度の授業づくり研修会では、授業づくりに関する学びを深めることはもちろん、参加していただいた先生方が自校に戻り、学びを生かした授業公開をした例も見られました。

そんな中、今回の研修の終わりに、ある先生がこの研修会の学びを次のように振り返りました。

去年、同期の友人が研修等に行って頑張る姿を目にして、漠然とした不安感にかられ、**居ても立っても居られない気持ちになりました。**何をしたらよいのか分からなかったですが、とにかく研修を受けたい、授業をもっとよくしたいと、そんな思いで申込をしてきました。**ただ、去年はマイナスを0にしている感じだったけど、この1年は、授業づくりに粘り強く取り組んで、0からプラスにしようと思ってやり抜きました。**

こうしたら子供たちは楽しいだろうな、いや、楽しくしなければいけないな、そんなことを思えるようになったのは、この授業づくり研修会のおかげです。

閉会の挨拶の中で、南信教育事務所学校教育課の林健司課長から、「研修の学びが、**明日からの授業のワクワクにつながる**ことを願っています」とのメッセージがありました。上記のような振り返りをされた先生のように、これまでの研修で得た学びが、ご自身の学校の児童生徒はもちろん、多くの先生方の授業のワクワクにつながることを願っています。これからも、授業にかかわることについて、いつでもご相談ください。

外国人児童生徒等に関わる皆さん

地域を越えてつながり、実践をひろげる

～ 第2回 外国人児童生徒等指導研修会 ～

外国人児童生徒等の指導や支援に関わる方々が集まり、原籍学級で伸び伸びと学ぶ児童の姿や、日本語指導教室で自分のペースで取り組む児童の様子を参観しながら、日ごろの実践や悩みを共有する研修会が飯島町立飯島小学校を会場に行われました。その様子を、外国人児童生徒等の教育を担う教員の養成・育成プログラムに示された『豆の木モデル』の項目に沿ってお伝えします。

あたたかな装飾が出迎える飯島小学校の日本語指導教室

1.『捉える力・育む力』 会場校授業公開

日本語指導教室では、担任の竹村さとみ先生が児童の視線になって関わることで、安心して学ぶ姿がありました。また、原籍学級では、経験豊富な授業者の先生の温かな姿勢、的確な問い返しなど、日常の姿を公開いただきました。複数の教室で公開をしていただけたことで、参加者が自身のニーズに合わせて参観でき、実際に児童の学ぶ姿を通して、連携のよさ等を共有できる貴重な機会になりました。

日本語指導教室での個別指導

連携

原籍学級での学び

2.『つなぐ力』 情報提供

伊那北小学校の北野文健先生から、日本語指導教室を利用していた卒業生の話を聞く『おおぞら講演会』の紹介と報告がありました。当事者の声の重みはもちろん、保護者の気持ちまで考えた環境や連携作りが参考になりました。地域によって、支援体制に特色があることを改めて感じると共に、先進的な地域から情報を得ることができる機会になりました。

伊那北小学校ホームページ
学校生活ブログ

3.『変わる力・変える力』 グループ別の情報交換会

初期指導と指導教材	原籍学級での支援	進学に向けた支援
持参した教材や参考となる資料を共有する中で、国語の「読むこと」の授業で、日本語指導教室に通う子供たちにどこまでの流暢さを求めるかについて情報交換がなされました。 ■話題になった教材 ・読みの多層指導モデルMIM ・学習支援情報検索サイト『かすたねっと』	学級担任との連携の重要性や週予定の共有方法を確認する中で、学級に戻ると表情が変化する子どもの様子について語り合い、和やかな雰囲気で情報交換がなされました。 ■話題になった支援 ・週時間割の交換日の設定 ・やさしい日本語の使用 ・在籍学級との接点づくり	中学生になって転入してきた生徒の進学についての事例を中心に、高校進学後の日本語指導や生活支援など、継続的な支援の難しさについて意見交換がなされました。 ■話題になった内容 ・公立高校での日本語指導を受ける場合の単位認定 ・進路の最新事例

研修会の中で多く聞かれたのは『連携』という言葉です。外国人児童生徒等の支援には、校内外のマネジメントが欠かせません。今後、管理職の先生や人的環境が十分でなくお困りの先生にも参加いただき、『連携』に向けた情報の共有をしていきたいと考えています。悩みや不安も気軽に語り合える場にしたいと考えていますので、次年度も是非ご参加ください。